

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会	会議場所	第2委員会室 全員協議会室
		担当職員	佐藤
日 時	令和4年9月16日(金曜日)	開 議	午前 10時 00分
		閉 議	午後 4時 48分
出席委員	◎赤坂、○小川、田中、奥野、藤本、木曾、菱田		
出席理事者	【産業観光部】由良部長 【商工観光課】三宅課長、谷主幹、橋本商工振興係長、松浦観光振興係長 【農林振興課】松本課長、中川副課長、佐藤担い手支援係長、 綾野林務・鳥獣対策係長、和田林務・鳥獣対策係主査 【農地整備課】澤田課長、中川副課長 【農業委員会事務局】吉田事務局長、小栗次長		
出席事務局	加藤副課長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者1名	議員0名

会 議 の 概 要

10:00

- 1 開議（委員長あいさつ）
- 2 事務局日程説明
- 3 付託議案審査（説明～質疑）

[産業観光部入室]

・産業観光部長あいさつ

◎第12号議案 令和3年度亀岡市一般会計決算認定（産業観光部所管分）
（2款総務費・6款農林水産業費・11款災害復旧費）

【説明】

・産業観光部所管課長順次説明（歳出歳入一括）

11:18

《質疑》

<赤坂委員長>

165ページから170ページまでで質疑はあるか。

<田中委員>

167ページ、農業者年金について、年金の最高額は幾らぐらいなのか。

<農業委員会事務局長>

今手持ちの資料がないので、後ほど調べて月額当たりの受給額を報告する。

<田中委員>

委員会運営経費の委員旅費がかなり高額であるが、旅費の内訳は。

<農業委員会事務局長>

委員旅費について、毎月定例総会を開催しており、農業委員19名、また関連する議案が出れば、農地利用最適化推進員にも出席いただいております、それらに係る費用弁償である。

<田中委員>

1日4,000円ぐらいなのか。

<農業委員会事務局長>

1日当たりの単価は、2,600円である。

<菱田委員>

169ページ、特産品小豆奨励費補助金について、私はまだ食べていないが、セブン-イレブンで亀岡産小豆を使ったスイーツが出ていると聞いており、それが全国的に展開されているということでありありがたいが、昨年の生産量と今後の生産振興に向けた思いを聞かせていただきたい。

<農林振興課長>

小豆については、平成29年産の作付戸数は153戸、作付面積が70.3ヘクタール。令和3年産の作付戸数は88戸に減っているが、作付面積は規模拡大をしていただいているので、85.7ヘクタールで、約15ヘクタールほど面積は増えている。全体の中で、経営自体は規模拡大をしていただいているので、京都産小豆という名前でセブン-イレブンでスイーツが出ており、その中に亀岡産小豆が使われている。今週から販売されており、課の中では食べている者もいるが、なかなか買えず、ぜひとも食べてみたいと思っている。頑張っってそのように全国展開されているし、小豆の需要は高く、昔は大納言小豆は手取りだったが、今は機械で取ることができるので、そのように生産振興を進めていきたいと考えている。

<赤坂委員長>

保育所の給食で有機野菜を使っているが、もっと使えないのか。

<農林振興課長>

今年度は3園から5園に増やしており、全てで使いたいと思っているが、調理の関係等の調整で、使えるところは使っていただくように進めている。

<赤坂委員長>

171ページから177ページまでで質疑はあるか。

<菱田委員>

172ページ、下水道事業会計操出金について、近年肥料の高騰で見直されているのは下水道汚泥を堆肥として使うという方法である。本梅町で、汚泥を堆肥にして地元に配っていると思うが、下水道事業なので分からなければ結構であるが、もし分かれば、どのくらい生産されて効果があるのか教えていただきたい。

<農林振興課長>

汚泥の数量等は確認できていないので、できれば下水道課で聞いていただきたい。

<菱田委員>

下水道課で聞かせていただくが、今は肥料の高騰で、これからいろいろ施策を打っていただかなければならない時期なので、ぜひ研究をお願いしておきたいと思う。次に、177ページ、畜産振興関係経費の亀岡市土づくりセンタ

一 堆肥乾燥施設設置業務について、私が何度も見に行き行って感じるのは、建屋の中にあまりにもたくさん堆肥を積み上げ過ぎて、エアレーションも何もできていない状況である。上に堆肥を積み上げ過ぎて空気が入っていない。本当は窓を開けて空気を抜いたほうがよいが、それは地元との協定でできないとのことで、今回パイプハウスを建てて、表で乾燥強化をしてもらっているが、あのパイプハウスの中は全然と言ってよいほど臭いがしないので、成果としては認めるが、今後さらに拡充する予定はないのか。

<農林振興課長>

亀岡市土づくりセンターの構造上、例えば、これが2つに分離されていれば、ある程度でき上がった堆肥と持ち込まれたふんに分けられて、風通しよくできるが、構造上一つのものになってしまっているため、なかなかそれを回収して換気するということになると臭い等の問題もあるので難しい。今回、2棟のパイプハウスを建てて、できたものをそこでより乾燥させるというようにしているため、一定臭いが収まっていると思う。今後もいろいろな形で研究して、乾燥を早くさせるような取組をしていきたいと思っている。堆肥を積み過ぎると逆に熱を持ち過ぎて、火事になったこともあるので、今回屋根を透明にできたことによって、光も入っているし、乾燥と発酵を促進できるように、研究していきたいと思っている。

<菱田委員>

屋根を一部透明にして機械が入るようにしてもらったので、作業効率も環境も若干は改善されていると地元から聞いているので、成果かなと思う。今後もパイプハウスを増設するなど環境改善に取り組んでいただきたいと思う。

<木曾委員>

176ページ、亀岡牛安定供給体制推進事業補助金について、HACCPの関係で、安定供給をしようと思えば、衛生面を含めて管理しなければならないし、改修も含めて実施しているが、実績としてどのくらい上がっているのか。

<農林振興課長>

亀岡市食肉センターの管理組合に対して、亀岡牛を屠畜していただいたら、1頭当たり4,000円を補助している。HACCPを取る以前であれば、例えば、屠畜をやっていただいている方の行程の管理項目がかなり多くなっているため、1日当たりに屠殺できる頭数が限られていた。一定の熱管理ができるように施設を改修したが、どうしてもその行程が複雑になっていく中で、1頭当たり4,000円の補助を出しており、それについては亀岡牛に限定させてもらっている。現在は、487頭である。HACCPに対応したことによって、亀岡牛以外の牛も屠畜の依頼がくるようになった。今までは条件が悪すぎて、亀岡市食肉センターでは、管理基準が弱すぎると言われていた基準をかなり上げたため、屠畜数がどんどん増えていくのではないかと考えている。ここ数年でHACCP全てに対応できるような施設の改修を実施しているため、屠畜数は増えてきたのではないかと考えている。

<木曾委員>

屠畜数が増えてくると、問題になっているふるさと納税に対応して、できるだけ供給できるように、また、市販の亀岡牛もさらに増やしていく。ブランド化していくためにはそういうことが必要になってくるため、今、全体的に亀岡牛は頭数が少ないため、現在の487頭を少なくとも1,000頭ぐらい

にしなければ、ブランド牛として、全体に行き渡るのはなかなか難しいと思う。その辺の計画的な部分も含めて、今後はHACCPを導入して、頭数を増やしていけるのか。

<農林振興課長>

今年度の当初予算でも上げさせていただいたが、計画の中で、人見畜産が頭数を増やしていただけるということであるし、また、昔と違い1頭当たりの牛が大きくなっているようであり、キロ数も増えていっているの、計画的に亀岡牛をできるだけ増やしていくような形で、今は大変飼料高騰でどこも苦労されているので、人見畜産のほうにも市独自の支援をしているので、市独自の支援も含めて、亀岡牛のブランドをできるだけ増やしていき、守っていきたいと思っている。

<赤坂委員長>

172ページ、地域営農担い手条件整備事業経費について、減額調整しているが、募集して、いっぱいになったため、金額が足りず割らなければならないのでは意味がないと思うがどうか。

<農林振興課長>

補正をきちんと上げられればよかったが、上限を1,000万円と考えていたので減額調整になってしまった。次年度に送れないかということも調整したが、今年度に事業実施したいという方もおられたのでこのような形で行かせていただきたいと思う。9月補正で、30名ほど要望があり、要件を緩和したというのもあるが、できるだけそのような形で今回も補正させていただいて実施していき、多くの方に使っていただきたいと思う。令和4年度で2年目になるが、できれば、3年ぐらいは続けて、農業は大変厳しい環境になっているので、市独自の支援として実施できればと考えている。

<赤坂委員長>

178ページ、179ページで質疑はあるか。

<木曾委員>

国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」について、全体から言えば今は大体何割ぐらい進んでいるのか。

<農地整備課長>

令和4年8月31日現在の進捗率は、整備面積割合で48パーセントである。状況としては、曾我部工区、本梅工区については順次工事を進めてもらっている。安町工区、千代川工区、大井工区については、今は換地計画原案の作成を今年度の早いうちに鋭意取り組んでもらい、来年から工事に入れればと思っているところである。

<木曾委員>

かなり進んできているので、これは順調に推移していると思う。いろいろ問題があったが、今は問題ないのか。

<農地整備課長>

今も基本的には再生材を使用して実施されているが、材料の確認を行い、今のところは、ガラスが入っていたとか、そのような問題は聞かない。

<木曾委員>

前回のときはかなりひどくて、耕作者から非常にクレームがあり大変だったが、再生材を使うときは必ずチェックして、問題がないことを確認した中で入れ

ていただくように、入れたら駄目ということではなく、それは仕方ないので、徹底していただきたい。これは要望としておく。

<赤坂委員長>

180ページから183ページまでで質疑はあるか。

<木曾委員>

林業担い手育成事業経費について、予算のときも決算のときもずっと言い続けているが、なかなか改善できていない。事務事業評価に上げてもよかったが、あえて上げなかったのは、やる気がないのかなという思いの中で、諦めの心境だと思う。やっぱり、亀岡市森林組合には本当に育ててほしいから言っているのに、このような状態ではまずいのではないのかと思うが、根本的に直らないのか。

<産業観光部長>

これは令和3年度の決算であるので、昨年、委員会の予算のときに御意見をいただいたが、そのままいかせていただいた。来年の予算編成時には、その辺を踏まえて、新たな形の予算を考えていきたいと思っている。亀岡市森林組合を今後とも応援していくような形で、森林事業を進めていき、保険の予算も計上しなければならないので、そのようなことを踏まえた予算にしていきたいと考えている。

<木曾委員>

亀岡市森林組合が競争力を持ち、全体として指導できるようにならなければならない。令和5年度からの予算は、上積みされるということなので期待しているが、根本的に人材の問題等を含めて対応していかなければならないと思う。亀岡市側も職員1人のみの対応で、本当に亀岡市の森林全体をカバーできるのかという問題もあるので、同じやるなら令和5年度の予算で、職員の育成も含めて考えてもらうような予算立てになっていかないと、今まで予算や決算でずっと言い続けてきたことが生かれないと考える。その辺も含めて来年期待したいと思うがどうか。

<産業観光部長>

農林振興課の職員体制については、予算編成時には常に要望を上げているので、今年も引き続き要望を上げていきたいと思う。

<木曾委員>

人員を増やすにしても、育てていくのももちろん大事であるが、こういうところはプロフェッショナルでないと難しいと思う。職員採用も含めて、そういうことに長けた人、ノウハウを持った人を雇わなければ、新卒で入った職員を入れても、それは無理だと思うので、即実践で活躍できるような人材があればよいと思うがどうか。

<農林振興課長>

亀岡市森林組合とはいろいろと調整させていただいて、新年度予算に計上できるような担い手の強化策を持ってくるように言っている。一つは、森林施業プランナーをいかに増やしていくかということを考えなければ、今後、森林環境譲与税でいろいろ集約していき、木材を出していくにしてもそれ以上は受けられないということになってしまう。その辺は、年次的な計画を、別途事務事業評価で5年後の計画等を説明させていただくが、そうした人を引き抜いていってでもよいから亀岡市森林組合には入れてほしいと言っている。

あとは一つの考え方として、1年間例えば、日吉町森林組合に行かせて、その分の補填を行政で一定考えていく等の提案をしている。人づくり、担い手づくりを積極的に、本腰を入れてやっていこうと思っている。

<木曾委員>

それはうれしいし、そういうことは本当に大事だと思う。日吉町森林組合との交流があり、話をしたことがあるが、人材が全国各地からやって来ている。1人は沖縄出身であり、特に四国が多かった。そういうところから30代・40代ぐらいの若者が率先して来ている。オペレーターや森林施業プランナーとしてもそうであるが、そのぐらいの勢いがないと難しいと思う。意気込みは非常にうれしいので、何とか人材育成もお願いしたいと思う。

<奥野委員>

183ページ、シカ捕獲強化事業補助金について、強化事業を年に何回実施しているのか。

<農林振興課長>

令和3年度の捕獲数は減っている。豚熱により、山へ入れない期間があったので、実際のところは予算をもっと取っていたが、減額という形の決算になってしまった。今年度は、豚熱で山へ入れない期間がなかったのも、結果としては増えてくると思っている。この狩猟期間で追い込んでいただいて、ドローンも入れて強化していきたいと思っている。

<奥野委員>

いろいろな方法があると思うが、やっぱり1頭でも多く獲っていただいて、農家の人の苦勞をなくすようお願いしておく。

<赤坂委員長>

作業道の補助金や整備等の予算が全体的に同じ金額で、これほど少ない金額でできるのかとか、昨年はそのような意見が出ていた。予算額が毎年一緒である。森林ボランティアの森林保全活動についても、12万円で保全できるのか。鳥獣対策もそうだが、しっかりと見直していかなければ、ずっと同じままで終わっていくと思う。また、猟友会は高齢者ばかりなので、若者たちを育成していく何か手段を考えなければ、どんどんお金がかかっていく。だから、予算を決める前に何か新しい方法で、新しいやり方に変えて考えてほしいがどうか。

<産業観光部長>

予算については、各課でそれぞれどういう形で今年はやっていくかというようなことで、かなり知恵を絞って予算を組んでいる。どうしても一から十まできめの細かいことができていないと言われれば、そうかもしれないが、特に林務の関係はかなり要望を受けているので、十分に今年の予算の現状を検討する中で、本当に必要なものには必要な予算をつけていただけるように予算要望していきたいと思う。

<赤坂委員長>

昨日もまちづくり推進部に、上下水道部と連携していかなければならないと言った。産業観光部も総務部と連携し、消防団に森林に関する資格を取ってもらい、山火事もあるのだから、林道を整備していけるようにしてほしい。

<農林振興課長>

全国の森林環境譲与税の使用率が低いため問題になっており、亀岡市でも57

パーセントぐらいの利用率で、木育等の事業をやっている。国では森林環境譲与税を広く使えるようにだんだん見直されており、今までであれば、このような事業には使えないというのがあったが、だんだん緩和されてきたので、森林環境譲与税をうまく財源として活用して、事業を推進できるような形で組み替えて、新年度予算を組んでいきたいと考えている。

<赤坂委員長>

184ページから187ページまでで質疑はあるか。

<小川委員>

187ページ、淡水魚環境を守る活動助成金について、保津川漁業協同組合に委託されて、カワウの駆除を行っているが、どこからどこまでの川をやっているのか。また成果は。

<農林振興課長>

保津小橋近辺で、ひも等を張り駆除いただいているが、原材料や人夫賃等をお支払いしている。

<小川委員>

最近、今まで見たこともないようなカワウの大群を見た。今後対策をいろいろ考えていかなければならないと思ったので、検討をよろしく願います。

<木曾委員>

カワウも大変であるが、サギが多いので対策しておかないと、川魚が全滅するらしいので併せて願います。

<赤坂委員長>

先ほどの農業者年金経費について、年金額が分かったので答弁を願います。

<農業委員会事務局長>

田中委員から御質問があった、年金受給額の最高額について、農業委員会としては受給額を把握していないが、農業者年金基金に問い合わせたところ、すぐには最高額の情報提供をいただけないとのことで、平均で、年額24万9,000円とのことであった。1カ月当たり2万円程度である。あくまで国民年金の上乗せということで、老後の安心サポートの年金制度であるので、御理解いただきたいと思う。

11:59

[休憩 11:59~13:00]

13:00

◎第12号議案 令和3年度亀岡市一般会計決算認定（産業観光部所管分）
（5款労働費・7款商工費・8款土木費）

[説明]

・商工観光課長説明（歳出歳入一括）

14:07

[休憩 14:07~14:15]

《質疑》

<赤坂委員長>

166ページ、188ページから189ページまでで質疑はあるか。

<田中委員>

166ページ、雇用対策経費の説明で、「雇用の安定化を促進した」と記載があるが、ここを利用して何人ぐらい就職されたのか。

<商工観光課長>

雇用数までは分からない。

<田中委員>

「雇用の安定化を促進した」と記載したのであれば、そこは確かめてもらわなければ事業をやった意味がないと思う。

<藤本委員>

188ページ、京都サンガJ1昇格クーポン事業における経済効果は。

<商工観光課長>

当該事業の直接効果については2億8,500万円余りになるが、プラスアルファが当然生じているので、それ以上の効果があったのではないかと思う。

<木曾委員>

移動販売設備導入補助金について、補助金の交付が18件であり、昨年で終わってしまったと聞いていたが、かなり申込みも多かったようである。せっかく活発にこの事業に取り組んでおられるが、さらにもう少し伸ばしてほしいという要望等は聞いているのか。

<商工観光課長>

昨年度、国の臨時交付金を活用して実施させていただいたところである。当初は500万円の予算立てをさせていただいて、結局足りなくなって補正を1回させていただいたところである。この事業自体は昨年度のみで、今年度は実施していないが、移動販売車ばかりが増えると、それはそれで今後の活動等も難しくなるようなことも聞いたので、令和3年度で終了させていただいた。

<木曾委員>

非常に期待しており、今までになかったタイムリーな事業だったと私は思う。無造作にではなく、もう少し計画的にやる必要があったのではないかと思うが、せっかくよい取組なので再度補助をしてやってほしいと思うがどうか。

<商工観光課長>

この先コロナの状況がどうなるか分からないが、経済の状況を踏まえる中で、またそのようなニーズ等があれば、考え直すのも一つかもしれないので、そのときにはこういった制度を設けさせていただければと思う。

<木曾委員>

ニーズはあるので、何とか伸ばしていく方向で考えていただきたいがどうか。

<産業観光部長>

申請が多いということは、人気のある事業だと感じている。予算の関係により昨年度で打ち切ったが、岸田内閣もこのような経済対策を打っていくと言われているので、そういうことも勘案しながら検討していきたいと考える。また、先ほど課長が言ったように、あまり多くなり過ぎても競合すると聞いて

いるので、その辺も併せながら考えていきたいと思う。

<木曾委員>

コロナで若者が雇用されずに、失業したり、今まで勤めていたところを辞めざるを得なくなって、何とか自分たちも事業を立ち上げたいと一生懸命考えている。これは雇用対策でもあるし、経済全体の対策にもなる。今後、亀岡が過疎化していく中で、販路の確保を含めて考えたときに非常に大事なことになると思う。これは一つの視点だけではなく、本当に大事なところであり、雇用の促進につながると思う。全額の補助ではなく、起業する人はそれなりの負担をしてもらわなければならない。非常によいタイムリーな話だと思うので、政府もいろいろ考えているみたいなので、前向きに検討して伸ばしていけるように、来年も取り組んでいただければうれしく思う。それこそふるさと力向上基金繰入金を使ってでも、これを実施してほしいと思うがどうか。

<商工観光課長>

市内で創業される方については創業支援助成金を出している。移動販売設備導入補助金を創設したときに、これを使えば創業支援補助金は御遠慮いただきたいということで、一つだけの支援をさせていただいていた。委員がおっしゃっていることとは話がそれるかもしれないが、今は創業支援助成金のほうも使っていただけるので、そちらの事業の見直しや充実を考えてもよいのかと感じるところである。

<木曾委員>

例えば企業であれば、企業立地に関して、固定資産税を3年間減免したり、市民を雇用すれば助成したり、二段構えで支援している。それから考えれば、そういうこともありだと思ふ。創業支援と併せて二段構えで、移動販売設備導入の支援をすれば、さらにうまく安定して支援ができると思う。これは要望としておく。

<赤坂委員長>

別々の業種ならばよいと思うので、考えていただきたい。

<田中委員>

別紙の資料の1ページ、亀岡商工会議所事業補助金について、「新製品・新技術開発5件」と記載があるが、どのような新製品や新技術開発に対して補助したのか。また、1事業者当たり幾らの補助金が出ているのか。

<商工観光課長>

斎田石材店については、御影石を活用した室内インテリア施工の石の工芸品を開発されたということで、事業費については全体で60万円のうち、3分の2を支援しているので、40万円を支出した。次に、有限会社前田鉄工所については、高級外車のアフターパーツ、要は純正のパーツではなく、オリジナルのパーツを作られたということで、128万円の事業費に対して80万円を支出している。次に、棉生テキスタイルについては紡績技術を活用した自社のオリジナル商品を作られたということで、100万円の事業費に対して、66万6,000円を支援している。次に、株式会社ヤマモトについては、冬商品として地鶏丹波黒どりの削り節である、かつおぶしみみたいなもののだが、鳥の削り節とその削り粉を開発されたということで、122万1,000円の事業費に対して80万円を支援しているところである。最後に、

谷石材店については、自宅で供養ができる小さなお墓を商品開発されたということで、67万円の事業費に対して、44万6,000円を支出しているところである。

<赤坂委員長>

これは、誰でも挑戦できるのか。

<商工観光課長>

例年事業者を募集して、亀岡商工会議所と京都府、亀岡市、京都産業21で審査会を実施している。その中でプレゼンしていただいて、審査員4名の方が決定して、対象事業者を選ばせていただいているところである。

<木曾委員>

そのような企業でなくても、例えば一主婦でもそのような開発に関して便利グッズを販売して、年間で売上を10億円、20億円出している人もいる。そのような人を支援していくような形も必要であると考えます。亀岡商工会議所にこだわらなくても、本当の意味での新しい開発やもっと違うコンテンツがたくさんあると思う。その辺も含めてもう少し工夫を加えて、応募が増えるようにしたほうが、より効果的にこの補助金を生かすことができるのではないかと考えるがどうか。

<商工観光課長>

委員がおっしゃったとおりだと思ふ。ちょっとしたアイデア・工夫で、それが商品化につながり、成功される方もおられるので、芽を潰すわけではないが、そういった方も含めて、決して亀岡商工会議所の会員でないと駄目であるとかではないが、そういう機会を今後増やしていくということも大変大切かと思っており、できるだけ来年度からそのような形でできればと思うので、協議させていただこうと思ふ。

<木曾委員>

亀岡商工会議所の会員でなければ駄目であるという話ではなくて、亀岡商工会議所は、会員だけが利用できる場所ではないので、広く一般の方にも活用してもらうことは、亀岡商工会議所の精神であるので、亀岡商工会議所とうまく打ち合わせして、もちろん会員も大事であるが、一般の人にも募集をかけて、新製品を開発すれば補助金が出るというようなことをアドバイスしていただければ、いろいろな意味で盛り上がり、新商品の開発につながっていくと思う。そのことによって、亀岡のネームバリューも上がっていくと思うので、ぜひとも亀岡商工会議所と連携を取っていただきたい。せっかくこういう補助金を出しているのだからよろしく願います。

<赤坂委員長>

190ページと191ページで質疑はあるか。

<奥野委員>

191ページの別紙資料、観光レンタルサイクル事業補助金について、費用対効果はあるのか。

<商工観光課長>

観光レンタルサイクルについては、ここしばらくコロナで観光客が少ないということもあるが、亀岡ではやはり二次交通という、観光客の足が必要になってくる。JRで来られて、その次の動きがなかなか取れない。バスかタクシーになってくるが、それもままならないところもあり、どうしても自転車が有

効活用されると思う。広くあちこちに点在する観光名所を見ていただくにはうってつけの一つのツールではないかと考えており、この実績で満足しているわけではなく、もっと利用を拡充していければと考えている。

<奥野委員>

そのための今後の動きは。

<商工観光課長>

時期を見てもっと台数を増やしたいと考えている。今は20台ほどしかないが、亀岡のサイクルツーリズムでは自転車を活用したスポーツができる地域であるので、レンタサイクルの需要は、一定この先増えてくると思っている。当然増やしていく必要はあると感じている。

<奥野委員>

今ある台数に対しての稼働率からいくと、まだまだ不足しているということか。

<商工観光課長>

不足している。

<木曾委員>

自転車1台で幾らかかるのか。

<商工観光課長>

アプリの手続き等を含めて20万円近くする。

<赤坂委員長>

自転車置き場に屋根を造ったほうがよいと思うがどうか。

<商工観光課観光振興係長>

屋根があると、GPSの修正がきかないということで、屋外のほうが望ましい。当然屋根をつけるかどうかの検討は何度もしているが、自転車置き場が駅前であるということもあり、特に台風等で屋根が飛んで、線路内に入ってしまうえば、大変危険である。そのような事情を勘案した中で、現在の状態になっている。

<田中委員>

今、自転車は何駅に置いてあるのか。

<商工観光課観光振興係長>

4駅全てである。JR亀岡駅は北と南の2か所に設置している。

<田中委員>

自転車の駐輪場ががら空きであるので、置いてはどうか。

<商工観光課観光振興係長>

駐輪場に置くと時間帯の問題もあるし、経費の問題も出てくる。また、過去の協議の中で、駐輪場側から言われたのは、一旦預けると、それを次に貸し出すことはできないとのことである。結局その間に何かあったときの責任を持つことができないということである。

<赤坂委員長>

台風の問題やいろいろあるが、どちらにしても屋根があり、しっかりしていると借りやすいと思う。野ざらしで置いてあり、周りが草ぼうぼうだったりすると、なんとなく汚らしいような気もする。だから、屋根は難しいかもしれないが、借りやすいような環境づくりの工夫だけはしたほうがよいと思うがどうか。

<商工観光課観光振興係長>

もちろんその辺については、今後も改善の余地は重々あると思うので、検討させていただく。

<藤本委員>

別紙資料の観光誘客促進事業補助金について、500万円ほどかけてやっただけに、トロッコ亀岡駅で降りても、そこからスタジアムやJR亀岡駅へ行こうと思っても行けないし、城下町に行こうと思っても行けない。バスも来ないし、タクシーも常時ないし、どのようにして誘客しようとしているのか。レンタサイクルがあると言っても、高齢者には厳しい。スタジアムでの試合が終われば、みんな帰ってしまうだけである。亀岡市内を観光してもらおう仕掛けができていないと感じるがどうか。

<商工観光課長>

スタジアムに来られたお客さんを広く誘客するために、サンガがJ1に上がったことを機に、ウェブサイトで「グルかめナビ亀岡」というものを作らせていただいて、市内のお店などの観光情報を発信することによって、市内の周遊を促しているところである。確かにその辺は取組が不十分なところは多々あるとは思いますが、そういうところから積み上げなければ、なかなか難しい問題であると感じている。

<赤坂委員長>

亀岡市観光協会に頑張ってもらっていただきたい。

<木曾委員>

191ページ、川の駅・亀岡水辺公園について、京都府からこの3年間ほどは補助金をもらっていたが、この先どうなるのか。

<商工観光課長>

京都府から、令和2年度と令和3年度に300万円ずつ補助金をいただいた。あともう一つ、別口で補助金を取った事業を合わせて計上させてもらっている。

<木曾委員>

2,200万円ぐらいかけて、整備した割には、もう一つ利用価値のないようなことになっていないかと心配する。いろいろな検証をしながら、近所の人に苦情もないようにという話をしていても、魚だけではなしに肉を焼いたりすると苦情が来るようなことも聞いている。もう少し一時的な部分だけで話を聞くのではなく、受けた以上は、あの施設を何とか活用する方法を考えなければならないと思う。草はぼうぼうであるし、マムシが出るとか、そのようなところで川遊び等をさせてはいけない。もし何かあったときに誰が責任を取るのか。整備した割にはトイレ掃除もできておらず、せっかくよい施設を造っても、管理する側がそのような姿勢では話にならない。あそこを管理してもらうために保津川遊船企業組合に委託しているのだから、それに見合う分をしっかりとしてもらわないといけない。せっかく市民の税金を使ってやっているのだから、市民があそこに集まれる、川遊びもできる、そのような施設にしたいのなら、活用できるように考えなければならないと思う。あのままであるのなら、京都府に早く返したほうがよい。

<産業観光部長>

指定管理者の保津川遊船企業組合には、管理をしっかりとやってほしいということを手紙で言ったし、草刈りについてもあれから大分してくれている。今

後も、せっかくよい施設なので、市を挙げて有効な施設となるように、また、北の玄関部の観光拠点になるようにしていきたいと思う。指定管理者と十分協議して、どのようにすれば、人が訪れるかということを検討しながら、しっかりやっていきたいと思う。

<木曾委員>

地元には府議会議員もおられるので、協議して、もう要らないのであれば返せばよい。私が言っておく。あそこを建てる時に、亀岡市が負担しなければならぬのなら返せと言っていた。前部長は補助金がなくなって利用価値がなくなったら返すと言っていた。それぐらい腹をくくってやってきているのか、見に行ったが、あのような状態であった。だから、前部長がおっしゃったように、返してはどうか。

<産業観光部長>

この事業はまだ4月から始まったばかりであるので、簡単に返すということではなく、市としては一つの観光拠点としてしっかりとやっていきたいと思っている。

<木曾委員>

部長が代われれば方針も変わるのか。その時々でコロコロ変わるようなことでは駄目だと思う。もらえば管理しなければならないし、補助金をもらっている間はよいが、そこから先はないので、負担になっているのなら返せばよい。それだけのことである。京都府で管理してもらえばよい。京都府と協議してはどうか。

<産業観光部長>

先ほども言ったが、4月から始まってまだ1年もたっておらず、返す返さないということは考えていない。しっかり管理する中で、今後協議しながら、市の一つの観光拠点としてやっていきたいと思う。何度も繰り返しになるが、御理解いただいて、よい施設になるように御協力をお願いしたいと思う。

<木曾委員>

最後に言っておくが、観光の拠点になっているのならよいがなっていない。

<赤坂委員長>

192～195ページまでで質疑はあるか。

<奥野委員>

193ページ、ハイキングコース等整備事業委託料について、委託先は。

<商工観光課長>

亀岡市観光協会である。

<奥野委員>

亀岡市観光協会に丸投げして、どのようなことをしているのか分からないのか。

<商工観光課長>

市内にある明智越、牛松山、川東、とこなげ、行者山、半国山、唐櫃越コースについて、整備していただいている。3年前の災害等で倒木等があり、それ以降、今も結構荒れたところも多くあるので、そういったところを中心に整備していただいている。

<奥野委員>

この6コースはいろいろな地域に分かれているので、自治会等の団体やボランティアへ委託料を出しているのか。

<商工観光課長>

亀岡市観光協会の作業員がやっている。

<奥野委員>

何人でやっているのか。

<商工観光課長>

3人である。

<菱田委員>

194ページ、明許線越分商工業振興対策経費のかめおか応援クーポン券事業について、「400店舗の参加があった」と説明があったが、この400店舗は多いのか少ないのか。市内の商店の何割ぐらいが参加しているのか。

<商工観光課長>

かめおかクーポン券事業については、市内で活動している個人事業主を対象にさせていただいたところである。今年度で4回目になるが、1回目には308店舗、2回目には395店舗、3回目には413店舗、4回目には、現在420店舗ぐらいの参加があり、冊子に実施店舗数を印刷させていただいている。それ以降でも手を挙げられたところは、追加店舗として対応させていただいているので、現在も動いているところであるが、実施店舗数は増えているのが現状である。全体で何件あるかは把握していないが、組織に入っている店舗プラス、入っていないところにも情報発信している。

<菱田委員>

しっかり全体像をつかんでおいていただきたい。看板を上げずに商売している人もあるし、電話帳に載っていないところもあるかもしれない。一方で先ほどから出ているキッチンカーも一つの店舗である。そういうことをつかんでおいてほしいと思う。そうでなければ、例えばキッチンカーはこれで足りているのかどうかとか、こういう分野はちょっと商業面で弱いなとか、特にこれからはインターネットで物事が動く時代になってくるから、店舗を構えなくても商売はできるわけである。次の商業施策を打っていく上でもそういうものはつかんでおいてほしいと思うので、要望としておく。

<奥野委員>

193ページ、ハイキングコース等整備事業委託料について、随時報告はあるのか。

<商工観光課長>

補助金や委託料については実績報告書を必ずいただいているので、しっかりといつどこで何をしたという報告をいただいている。

<奥野委員>

過去のものも全て保管しているのか。

<商工観光課長>

保管している。

<木曾委員>

写真も入っているのか。

<商工観光課長>

入っている。

<藤本委員>

194ページ、かめおか応援クーポン券事業について、経済効果は幾らになる

のか。

<商工観光課長>

当該事業の直接的な効果としては、2億7,193万円であり、プラスアルファの効果があつたと想像している。

<木曾委員>

189ページ、サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業について、一度視察に行かせていただいたが、その後、亀岡で本当に事業をやろうという企業は何社現われたのか。

<商工観光課長>

7月の委員会でも、少しお話をさせていただいたが、そのときにお配りした資料に6事業者を上げさせていただいて、事業の結果や今後の展開を書かせていただいていた。まだ道半ばであるが、例えば、京都先端科学大学と共同して研究を行ったり、亀岡市内で、ドローンを飛ばして実証してくれているので、そういった活動はまだ継続しているところがあり、今後行う予定も入れると、この6件についてはまだ引き続き何らかの形で関わって、亀岡での活動を予定している。

<木曾委員>

それは、まだ補助金が出ているからやってもらっているのか。補助金なしでやってもらっているのか。

<商工観光課長>

補助金はまだ出していない。

<木曾委員>

亀岡市で起業するかどうかもあるが、現在は、検証して模索してもらっているという認識でよいのか。

<商工観光課長>

そのとおりである。

15:17

[休 憩 15:17~15:30]

15:30

4 事務事業評価

[産業観光部入室]

(1) 森林活用推進事業経費（森林意向調査実施計画策定業務委託料・森林経営管理権集積計画業務委託料）

・農林振興課長 資料に基づき説明

15:45

《質疑》

<赤坂委員長>

亀岡市森林組合の技術を向上させる取組を急いでやらなければ、意識調査等いろいろなことをやっても、下請ばかり使えば、結局赤字になったりして、市が補填しなければならなくなる。自然災害でいろいろなことが起きるから、まず技術力だと思うし、もちろん他市との連携は必要だと思う。しかし、技術を上げるためにはどうすればよいのかと、保険についてもいろいろ言っていた。木を切れないとかあったが、それも改善しながら動いていかなければ、もう50年以上たっている木がたくさんあるので、これを見ていくと、5年後にこれだけやって、あとまた10年、30年、40年かかるわけで、また倒れてしまう。やはり、危険性の高いところから集積してやっていかなければ駄目だと思うので、緊急時にぱっと行ける亀岡市森林組合の技術にかかってくると思うがどうか。

<農林振興課長>

今おっしゃっていただいたとおりであり、亀岡市森林組合も一つの経営体にはなるが、ほかに近隣で亀岡市に登録している事業者は10経営体あるので、その中に日吉町森林組合も入っていただいている。そうした力のあるところへ委託して、手挙げ方式でやっているのだから、審査していく。もちろん、亀岡市森林組合にも力をつけてもらうように育成していく必要があると思うが、安くて丁寧に、所有者と一体となって進めていけるかというところを審査しながら、委託していくというような形をとっていきたいと考えている。

<赤坂委員長>

所有者はある程度お金が入ってくると分かれば、伐採してもらおうとだんだんなってくるので、路網整備も含めて、やはり将来的に使えるようにしていただきたい。亀岡市森林組合に教えてほしい。せっかくほかの10社のお手本の人がいるのだから、できるだけ緊急時に亀岡市森林組合がぱっと動けるように、システム化しておいてもらいたいと思う。

<木曾委員>

令和2年度は意向調査と経営の分を含めて、両方とも800万円ほどかかっていたが、令和3年度決算では、600万円と経営に関しては200万円ほどになっており、徐々に進んでいるから減ったのか、それとも予算取りができなかったのか。

<農林振興課長>

当初予算では800万円を出させていただいたが、できるだけお金をかけずに点数化や図面化していく中で、京都府に航空写真等の山の図面をうまく使わせてもらってやったため、本来であれば、南丹市等は飛行機を飛ばして航空写真を一から撮ったりして、正確な図面を作られているが、亀岡市では、今ある図面を使って安価でやっていく方法に変えたので、決算としてはその分を落として基金に積ませていただいた。

<木曾委員>

山はやはり精度をもってやらないと航空写真だけではなかなか分からないところもある。篠町野条生産森林組合と高槻市との境界の立会をしたときに、遡れば、もともと樫田というところは昔の南桑田郡なので、京都府だったが、越えて大阪府になってしまった。境界がはっきりしないままに造林が始まっ

てしまったので、高槻市が、篠町野条生産森林組合の所有地に造林してしまった。そのことで若干もめて、どの位置が境界なのかということでやったのだけれども、航空写真だけでは分からないのである。やはり、しっかり測ってもらわないと分からないということで、立会して結果としては分かったが、大阪府と京都府との境が変わってしまったということになる。そのようなことはないと思うが、近隣の確定をしていくときに、予算をかけていかないいろいろな問題が起こってくるのではないかと思うが大丈夫なのか。

<農林振興課長>

今おっしゃっていただいた問題点は出てくると思っているが、結果として、今は、境界のややこしくないところから入らせてもらっているので、この金額でいけたと考える。今後、そのような難しいところや個人がたくさんおられて分配しなければならないようなところが出てくる。結果として、たまたまこの金額でその林班ができただけで、再度立会とかになれば、金額も大きくなると考える。

<木曾委員>

これから進めていく全体から言えば、何パーセントぐらい進んだことになるのか。

<農林振興課長>

まだほんの数パーセントである。

<木曾委員>

全体をやると思えば何年ぐらいかかるのか。50年もかかるのならば、はっきり言って無駄なことになってしまう。50年たてば変化しているので、また一からやり直さなければならなくなる。例えば、5年であれば5年のスパンですとか、意向調査をしたところから、順次間伐したり、伐採したり、植林したり、区分けしたりしないと効果が上がらないと思うがどうか。

<農林振興課長>

今はこれで進めているが、やはり加速化していく必要があると思っており、受けてもらうサポートセンターの体制等、徐々に加速化させて、施業量を増やしていかなければ、30年かかってしまうので、10年、15年でできるような体制を整えて、進めていきたいと思っている。今は1人しか職員がおらず限界があるので、体制づくりを要望していきたいと考えている。

<木曾委員>

山林の所有者をまず押さえていかなければ、どんどん所有者が亡くなられて、相続に入ったりすると地権者がばらばらになってしまい、意向調査ができなくなってしまう。やはり、高齢の方がおられるところは早急に押さえていかなければ次の段階に入っていけなくなるので、一層工夫していただければと思うがどうか。

<農林振興課林務・鳥獣対策係主査>

亀岡市の森林整備の仕方としては、亀岡市森林組合による森林経営計画に載っているものと、市が進める森林経営管理制度に求めるものの2本柱になっていくので、それが共に加速することによって、今は数パーセントだが、それが次も数パーセントではなくて、数パーセントから1割増える、2割増えるという形で加速度は上がっていくと思っている。

<田中委員>

先ほど課長がおっしゃった「体制づくり」であるが、「早く」というのは具体的にどのくらいの目安や目標を持っているのか。もう一点、資料に「意欲と能力のある林業経営者による管理」とあるが、日吉町森林組合とあと9つはどのような事業者なのか。

<農林振興課長>

まず、体制づくりについては、2種類の進め方があり、森林整備計画を立てていただくために亀岡市森林組合があるが、森林施業プランナーをもう少し作ってもらわないと、今は1人で時間がかかるような状態なので、計画すら出せない状態である。人を増やしてもらい3人が森林施業プランナーとなれば事務量は増えてくるので、そうしたところでこちらの管理体制も必要だと思うし、また、これを進めていく中で体制づくりというところで、ある程度めどが立った段階で体制をしっかりと整えていく必要があると思う。市の職員についてもそれが分かるような職員を育てる必要があると思うので、要望は今もしているところであるが、具体的に整理した段階でしっかりと整えていきたいし、育成は必要であると考えている。林業経営体10社については、京丹波町森林組合や日吉町森林組合、美山町森林組合等が入っているし、民間事業者も入っており、京都府に登録のある南丹管内の事業者である。

<田中委員>

亀岡市森林組合に森林施業プランナーを増員してほしいという要望があるが、本当に今の亀岡市森林組合にその意欲があるのかどうか、意向があるのかどうかということを確認していただきたい。人件費も含めて、予算は亀岡市が出すので、亀岡市森林組合で雇っていただきたいというような働きかけが非常に大事ではないかと思うがどうか。

<農林振興課長>

亀岡市森林組合とは、そのような協議を何度も重ねており、体制づくりとしては、現在、林業大学校の卒業生たちが来ているが、実際に採用するかはこれから見ていくようである。そのほかに職員が実質は2名、課長と係長だけであり、来年4月に向けて1人増やすと言われているし、森林施業プランナーを3人にしたいと組合長は言っておられる。1年間であれば1年間修行に行き、しっかりと学んで帰ってくる。その間は臨時職員を雇ってというところを、補助していくという話までしている。また、できる人を引き抜いてくるぐらいの気持ちでやらないと、間に合わないというところまで話をしているので、早急に亀岡市森林組合には動いていただきたいと思う。

<菱田委員>

施業計画をつくってやっていくが、山はどんどん育っていくので、製品になる木材から間伐していき、残った木を大きくしていくというような攻めの方法を取られているところもたくさんあるので、そのような方法がよいと思う。また、将来的に行政で、もしくは亀岡市森林組合と協議して、亀岡の山を杉山にするのか、檜山にするのか、もしくは松山に戻すのかといったことも含めて今から計画を立てておかなければ、目の前の木を、どうやって切ろうという話ばかりでは駄目だと思うが、どう考えているのか。

<農林振興課長>

まずは人工林4,300ヘクタールを優先的に間伐していこうと思っているが、樹齢期を一定越えてしまうと、府の補助金が少なくなったり出なかったりする

るので、優先的にやっていきたいと思っている。また、蕨田野町の大城山では、ドローンを使った植樹をされるので、そのような技術的なことも含めた中で、一体的にどのようなことができるのか、亀岡市森林組合とともに考えて計画していく必要があると思っている。

<菱田委員>

今まで広葉樹林になっているところは、所有者の考え方もあるが、スギやヒノキを植栽しても向かないと考える。もしくは、かつては植栽する木を担いで山に上がっていたが、今おっしゃったように、ドローンを使って材料を運んだりもできるので、そういったことも含めてよい形で山を残していくことをお願いしたいと思う。もう1点、調査をしていく中で、当然個人所有のところが今後出てくると思うが、中には「うちの山がどこにあるか分からへんし、もうそれやったら亀岡市もらって」という話も出てくると思うが、その場合はどうするのか。

<農林振興課長>

実際、「山をもらってくれ」という話はよくあるが、市としては管理ができないのでお断りしているのが現状である。例えば、篠町の生産森林組合等はまとめて山を持っておられるので、非常にやりやすいが、保津町の山等は、所有者が細かく分かれており、他府県の方もおられる。その辺は後回しにしながら、早く進めるところをとりあえずやっていこうという状況である。後になればなるほど、そのような課題は山ほど出てくると心配している。

<菱田委員>

先ほどスギ・ヒノキという話をしたが、やはり山の治山ということ考えたとき、スギ・ヒノキよりも広葉樹のほうが当然よい場合がある。広葉樹であるクヌギやナラを植林して、スギ・ヒノキであれば50年、60年かかるものをクヌギ・ナラで10年、15年で伐採して、しかも伐採しても根が腐らず新しく芽が出てくる。一度植林すれば何年も代替わりして収穫できるという部分も頭に置いていただいて取り組んでいただきたいと思うがどうか。

<農林振興課長>

有害鳥獣の関係もあり、山の上にクヌギ等があれば動物が下へ降りてこないとか、そのような計画を立てていかなければいけないと思うので、その辺は十分に研究しながら進めていきたいと思っている。

<木曾委員>

日吉町森林組合といろいろ話をしていると、「亀岡の間伐はあと5年」と言っておられる。5年を過ぎると、価値が下がってしまい結局手がつけられなくなってしまいうので、あと5年のうちに間伐をできるだけやっしまわなければならないと思う。そうでなければ、補助金が減るので、間伐できないという結果になってしまう。だから、もう少し積極的にできる体制づくりをするほうがよいとアドバイスを受けた。いろいろ山の形状によって、何を植えればよいのかということももちろんあるが、50年前、60年前に植林された分は、植えられるところに全部植えてしまっているのので、急斜面のところでもスギ・ヒノキが立っている。そこを早く間伐しなければ、本当に大きな災害が起こってしまう可能性があるとおっしゃっていた。篠町はかなり進んだので、一度参考に見に来ていただきたい。やはり全体を見るのは森林施業プランナーなので、山に入りしっかり観察できる人がいなければ無理なのかな

とつくづく思った。一度来ていただいて、実際のところを見ていただくのがよいと思うがどうか。

<農林振興課長>

現場へ行かせていただいて、きれいにやっておられるなと思って見させていただいた。今おっしゃっていただいたように、やはり、森林施業プランナーでしっかりと計画的に山全体を見渡せる方が必要だと思うので、アドバイスをしっかり聞きながらやっていきたいと思っている。

<赤坂委員長>

やはり総合計画を考えて、もちろん間伐もがばっと間伐すればよいものでもないし、山水の危険もあり、鳥獣対策の部分と結びつけていったほうが絶対によいと思うし、ユスラウメやヤマモモ等のエリアを作るのも必要だと思う。間伐した間に植えても光合成がしにくくなるので、エリアを作っていかなければならないと思うし、そのようにいろいろなことを考えて分かっている人を早く育てることが一番だと思う。

16:43

《評価》

<赤坂委員長>

これより、評価を行う。各委員は個人採点について、順次報告を願う。

・小川副委員長

必要性：3点、妥当性：2点、効率性・費用対効果：2点、成果：1点

・田中委員

必要性：4点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点

・奥野委員

必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点

・藤本委員

必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点

・木曾委員

必要性：2点、妥当性：2点、効率性・費用対効果：2点、成果：2点

・菱田委員

必要性：4点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：2点、成果：1点

《総合評価結果のまとめ》

<赤坂委員長>

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は43点となり、評価基準は「2課題がある」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、意見はあるか。

<奥野委員>

拡充。

<藤本委員>

拡充。

<木曾委員>

拡充。

<田中委員>

拡充。

<菱田委員>

拡充。

<小川委員>

拡充。

<赤坂委員長>

「拡充」とする。多くの意見を出していただいたが、やはり森林対策を根本的に見直していかなければならないと思う。自然災害から町を守るためには、森林施業プランナーを早く育てなければ間に合わないし、しっかり予算を確保して、森林整備についていろいろ考えてもらいたい。また、他市町との連携もこれからコミュニケーションを取りながらしっかりやっていただけると、プロがおられるし、「何とかしてやろう」という仲間意識を持ってやってもらえると思うので、全体的に考えてやってもらいたいと思う。最後に、執行部から意見はあるか。

<産業観光部長>

昨年から森林の関係について、委員会で視察していただいたり、いろいろと御意見をいただいたりしているので、時間をあまりかけずに早くしていかなければならないし、市の体制も整えるような形で進めていきたいと思う。また、亀岡市森林組合についても、先ほど課長が申したように、昨年よりも話す機会や協議する場を多く設けており、現状を把握して進めていかなければならないという話をしている。今回の事務事業評価を受けて、「拡充」ということで、予算も含めて森林環境譲与税を来年もいただくことになるので、今後とも予算についても検討しながら進めていきたいと思うので、今後ともよろしく願います。

<赤坂委員長>

しっかり意見・改善点をまとめて報告したいと思う。文言は正副委員長に一任願う。今回は、9月20日（火）、午前10時から分科会を開催する。

～散会 16:48